

# 環境地質学シンポジウム論文集

## 原稿作成方法

### I 一般事項

#### 1. シンポジウム論文集原稿投稿の手続き

本文も含めて以下の3種類を、社会地質学会 第27回環境地質学シンポジウム担当へ2017年10月11日(必着)までに提出すること。

- ① 論文の原本(A4サイズ)
- ② 日本語要旨・英語要旨(A4サイズ)
- ③ 投稿整理カード

#### 2. 提出ファイル形式および印刷方法

提出された原稿は、編集委員会による書式のチェックおよび著者による訂正後、原則としてそのまま印刷原稿とする。このため、原稿の作成にはMicrosoft Wordや一太郎を使用し、本文をMS明朝体10ポイントで、48字×46行で書くなど、原則として以下に示す原稿の作成要領に定めるような書式で作成する。

#### 3. 日本語要旨

日本語要旨は、本文同様A4サイズにて、400字以内で書く。その際、以下の書式で作る。

日本語要旨は、まずMSゴシック太字11ポイントで「日本語要旨：」と書きセンタリングをする。次の行に日本語の題名をMS明朝太字11ポイントで書きセンタリングをする。次の行に日本語の執筆者名をMS明朝10.5ポイントで書く。この際、所属ごとに同じ番号を氏名の最後に上付き1/4角で付し、所属名と住所を執筆者名の次の行からMS明朝9ポイントで日本語で書きセンタリングする。1行空けて、日本語要旨をMS明朝10ポイントで400字以内で書く。

#### 4. 著作権

環境地質学シンポジウム論文集に掲載された論文は、著作者が別途定める著作権譲渡等同意書に必要な署名をすることにより、社会地質学会に帰属するものとする。また、社会地質学会が著作権を保有する著作物を利用するにあたっては、受諾を社会地質学会より受けなければならない。

#### 5. 原稿の提出先は、以下のとおりである。

メールアドレス：27th\_envgeo@jspmug.org

件名：第27回環境地質学シンポジウム論文集原稿提出ファイル

- ① 原稿ファイル

- ② 日本語要旨・英語要旨ファイル
- ③ 投稿整理カード(PDF)

### II 原稿作成方法

#### A. 和文原稿

##### 1. 構成の概要

a：日本語原稿は以下の順に構成すること。①日本語の表題、②日本語の執筆者名、③日本語の執筆者の所属と住所、④英語の表題、⑤英語の執筆者名、⑥英語の執筆者の所属と住所、⑦英語の要旨、⑧英語のキーワード、⑨日本語の本文、⑩謝辞、⑪引用文献。

b：原稿はA4版で作成すること。また、その際原稿はそのまま印刷できるように、文章や図表を適当にレイアウトし、完成させたものを編集委員会に提出すること。このため、以下の原稿作成方法に従って作成すること。

##### 2. 原稿の書き方

①投稿原稿はA4版で作成する。この投稿原稿に編集委員会が作成した柱の原稿を付け、B5版に縮小し、そのまま印刷する。よって、原稿はそのまま印刷できるように著者が作成すること。②すべて図表などの大きさやレイアウトは、刷り上がりを考慮して行うこと。③原稿の余白は、上下30mm、左右25mmとし、図表や本文が余白にかかってはならない。④本文は、MS明朝10ポイントで書く。なお、1頁あたりの文字数と行数は、48字×46行とする。⑤見出しには原則として番号を付けない。大見出しは前1行あけてセンタリングしMSゴシック太字11ポイントで書く。中見出しは前1行あけて左詰めとし、MSゴシック太字10.5ポイントで書く。小見出しは、左詰めとし、MSゴシック太字10ポイントで書く。なお、見出しは大見出しから優先して利用することとする。⑥完成原稿の右下隅に、著者名とページを鉛筆で書くこと。⑦句読点、引用符、その他記号もすべて全角1字で書く。⑧文中の英字、数字は半角でTimes New Roman10ポイントの大きさで書く。⑨生物の学名などラテン語はTimes New Roman斜体10ポイントで書く。⑩完成原稿の例を別添に示す。見本AはMicrosoft Wordにて作成したものである。

##### 3. 構成

①第1行目から日本語表題をMS明朝体太字14ポイントで書きセンタリングする。②次の行に執筆者をMS明朝10.5ポイントで書きセンタリングする。この際、所属ごとに同じ番号を氏名の最後に上付き1/4角で付し、

所属名と住所を執筆者名の次の行から日本語で**MS明朝体9ポイント**で書きセンタリングする。筆頭者が希望する場合は、eメールアドレスを、所属の住所の後に2字空けて、例のように書く。例)「e-mail: abc@defgh.jp」③一行空けて、英文の表題を**Times New Roman太字14ポイント**で書きセンタリングする。④さらに次の行に英文の執筆者名を**Times New Roman10.5ポイント**で書きセンタリングする。なお、執筆者の表記は、最初にFirst name次いでMiddle name最後にFamily nameを書く。なお、Family nameはすべて大文字で書き、First nameやMiddle nameは原則として最初の1文字目は大文字で、2文字目以降は小文字で書く。また、所属を和文に合わせてFamily nameの後に上付き1/4角で付す。この次の行から英文の所属名と住所を**Times New Roman 9ポイント**で書きセンタリングする。⑤次の行の中央に「Abstract」と**Times New Roman太字11ポイント**で書き、さらに次行から英文要旨を**Times New Roman10ポイント**で200語~300語で書く。⑥英文要旨の最後の行から1行空けて、左詰に**Times New Roman太字10ポイント**で「Key Word:」と書き、続けてキーワードを5語ほど**Times New Roman10ポイント斜体**で書く。⑦この後、1行空けて本文を書く。⑧謝辞は、本文の最後に入れる。前の見出しの文章の最後の行から1行空け、左詰で「謝辞」と**MSゴシック太字10.5ポイント**で書き、続けて謝辞文をMS明朝10ポイントで書く。⑨和文の最後には引用文献を書く。その際、「文献」は大見出しの扱いとする。

#### 4. 文章と文体：

①文体はひらがなと漢字による「である」調とし、現代かなづかいを用いる。②漢字は当用漢字とする。ただし、固有名詞や学会で広く用いられている慣用の述語はこのかぎりでない。③句読点は「.」「,」を用いる。④本文中(謝辞を除く)の人名には敬称をつけない。⑤数量を表す数字はアラビア数字とする。⑥単位は原則としてメートル法により、省略形(例えば、kmやcm、 $\mu$ mなど)を用いる。⑦数式はなるべく2行以上をしめないように書く。⑧文中に外国語を挟むことはなるべくさける。ただし、学名、適当な訳語がない述語、固有名詞などはこのかぎりでない。⑨文中の英文は原則として小文字を用いる。⑩固有名詞で、読み異なる恐れのあるものにはふり仮名をつける。

#### 5. 引用文献：

①文中の文献の引用は、下の例にならう。ただし、著者名のまぎらわしいものは、姓名を完全に記載する。

例)・小川(1899)は、これを中央日本横溝帯と呼んだ。  
・これを中央日本横溝帯(1899)と呼んだ学者もある。  
・これらの研究(原田, 1888; 小川, 1899; 小沢, 1923a, b)によると、…  
・Smith(1986, 1988)はこれを研究して…  
・多くの研究者によって研究されている(小川, 1899; 小沢, 1923, 1924)

②引用文献は文献として論文末に一括し、著者名のアルファベット順、同一著者の論文は、単独論文を年代順に、続けて第2著者のアルファベット順とし、同一の組に記載する。

文献の書き方は、以下の例のように記載する。

イ)和文は姓名の次に著作物の出版年、次いで題名を書き、題名の最後は「.」で止める。次に雑誌名ないし書籍名を書く。書籍の場合はこの後出版社名を書く。最後に引用部分のページ数を書き「.」で止める。

ロ)英文も同様の順に記載していく。姓名については、Family Nameから書き始め、Family Nameの最後に「,」を付け、半角開けてMiddle NameやFirst Nameのイニシャルを書く。雑誌名および書籍名は斜体で書く。

例)

### 文 献

加藤武夫, 1920, 黒鉱鉱床に就いて, 地質雑, 27巻, 301-309 ; 326-332.

加藤武夫・杉 健一, 1927, 日本西南部外帯の推し被せ構造(Deckenstruktur)(予報), 地質雑, 34巻, 249-252.

小池 清, 1957, 南関東の構造発達史, 地球科学, 34巻, 1-16.

Mitchum, Jr., R.M., 1977, Seismic stratigraphy and global changes of sea level, part 11 : Glossary of terms used in seismic stratigraphy. *Mem. Amer. Assoc. Petrol. Geol.*, no.26, 205-212.

小川琢治, 1944, 日本列島, 弘文堂, 東京, 372p.

Oishi, S., 1940, The Mesozoic floras of Japan. *Jour. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ.*, Sec. 4, 5, 123-480.

大塚之助, 1938a, 新生界対比における軟体動物化石の価値., 地質雑, 45巻, 302-315.

大塚之助, 1938b, 南部フォッサ・マグナ地質構造上の一特性. 地質雑, 45巻, 528-529.

Reading, H.G., 1986 ed, *Sedimentary Environments and Facies* 2nd ed.. Blackwell Sci. Publ., Oxford, 615 p.

Schuchert, C. and Lomgwell, C.B., 1932, Paleozoic deformations of the Hudson Valley region, New York. *Amer. Jour. Sci.*, Vol.23, 305-326.

③学術雑誌等の電子出版態を引用する際には、特別の引用表記法が指定されている場合を除いて、通常の印刷出版物と同様の引用表記とする。なお、印刷出版物と電子出版物が同時に出版されている場合には、印刷出版物を優先して引用すること。④インターネット上の情報の引用については、その情報が当該原稿の出版時点以降十分な期間にわたって存在し続け、かつ掲載内容が固定的であることを必要とする。参照を行う際の記載にあたっては、原則として公開出版物への URL 掲載の許可を web 掲載管理者から著者が受けることとする。単一の参照先については、ページファイル名を含めた URL、複数ないし全体を参照する場合には当該ホームページアドレスを明記し、当該ページの著作権者名とともに引用することとする。

## 5. 図・表・写真：

①図・表・写真は、次の2種類に分け番号をつける。  
a. **Fig.**:本文中に入れる図および写真。 **b. Table**:本文中に入れる記号・数字・文字・ケイのみからなるもの。②図・表・写真中の文字は英文とする。ただし、日本語を併記してもよい。③図・表・写真の説明文は、英文とし、図表に隣接して **Times New Roman 9 ポイント**の大ききで書く。なお、Fig.と Table は同書体同サイズの太字にする。④図・表・写真は、本文中に著者の責任で挿入し提出原稿とする。その際、原稿が約 80%縮小されて印刷されることを考慮すること。

## B. 英文原稿

### 1. 構成の概要

**a** : 英語原稿は以下の順に構成すること。①英語の表題、②英語の執筆者名、③英語の執筆者の所属と住所、④英語の要旨、⑤英語のキーワード、⑥英語の本文、⑦謝辞、⑧引用文献、⑨日本語要旨（日本語の執筆者名・所属・住所を含む）、⑩日本語および漢字による固有名詞のローマ字表記の対照。

**b** : 原稿は A4 版で作成すること。また、その際原稿はそのまま印刷できるように、文章や図表を適当にレイアウトし、完成させたものを編集委員会に提出すること。このため、以下の原稿作成方法に従って作成すること。

### 2. 原稿の書き方

①投稿原稿は A4 版で作成する。この作成原稿に編集委員会が作成した柱の原稿を付け、B5 版に縮小し、そのまま印刷する。よって、原稿はそのまま印刷できるように著者が作成すること。②すべて図表などの大きさやレイアウトは、刷り上がりを考慮して行うこと。③原

稿の余白は、上下 30mm、左右 25mm とし、図表や本文が余白にかかってはならない。④本文は、**Times New Roman 10 ポイント**で書く。なお、1 行あたりの文字数と行数は、96 字×46 行とする。⑤見出しには原則として番号を付けない。大見出しは前 1 行あけてセンタリングし **Century Gothic 太字 11 ポイント**で書く。中見出しは前 1 行あけて左詰めとし、**Century Gothic 太字 10.5 ポイント**で書く。小見出しは、左詰めとし、**Century Gothic 太字 10 ポイント**で書く。なお、見出しは大見出しから優先して利用することとする。⑥完成原稿の右下隅に、著者名とページを鉛筆で書くこと。⑦文中の英字、数字は半角で **Times New Roman 10 ポイント**の大ききで書く。⑧生物の学名などラテン語は **Times New Roman 斜体 10 ポイント**で書く。⑨印刷例を別添に示す。見本 B は Microsoft Word にて作成したものである。

### 3. 構成：

①第 1 行目から英文の表題を **Times New Roman 太字 14 ポイント**で書きセンタリングする。さらに次の行に英文の執筆者名を **Times New Roman 10.5 ポイント**で書きセンタリングする。なお、執筆者の表記は、最初に First name 次いで Middle name 最後に Family name を書く。なお、Family name はすべて大文字で書き、First name や Middle name は原則として最初の 1 文字目は大文字で、2 文字目以降は小文字で書く。また、所属を和文に合わせて Family name の後に上付き 1/4 角で付す。所属名と住所を執筆者名の次の行から **Times New Roman 9 ポイント**で書きセンタリングする。②筆頭者が希望する場合は、e メールアドレスを、所属の住所の後に 2 字空けて例のように書く。例) 「e-mail: abc@defgh.jp」。③次の行の中央に **Abstract** と **Times New Roman 太字 11 ポイント**で書き、さらに次行から英文要旨を **Times New Roman 10 ポイント**で 300 語内で書く。④英文要旨の最後の行から 1 行あけて、左詰に、**Times New Roman 太字 10 ポイント**で **Key Word:**と書き、続けてキーワードを 5 語ほど **Times New Roman 斜体 10 ポイント**で書く。⑤この後、1 行空けて本文を書く。⑥謝辞を書く場合は、本文の最後に入れる。その際、前の見出しの文章の最後の行から 1 行空け、左詰で「**Acknowledgement**」と **Century Gothic 太字 10.5 ポイント**で書き、続けて謝辞文を **Times New Roman 10 ポイント**で書く。⑦本文の最後には引用文献を書く。その際「**Reference**」は、大見出しの扱いとする。⑧引用文献の最後の行の後 2 行空けて日本語要旨を書く。日本語要旨は、まず **MS ゴシック 太字 11 ポイント**で「日本語要旨:」と書きセンタリングをする。次の行に日本語の題名を **MS 明朝 太字 11 ポイント**で書き

センタリングをする。次の行に日本語の執筆者名を **MS 明朝 10.5 ポイント**で書く。この際、所属ごとに同じ番号を氏名の最後に上付き 1/4 角で付し、所属名と住所を執筆者名の次の行から **MS 明朝 9 ポイント**で日本語で書きセンタリングする。1 行空けて、日本語要旨を **MS 明朝 10 ポイント**で 400 字以内で書く。⑨英文原稿で、日本語および漢字による人名・地名・地層名などをローマ字書きにするときには、それらを文末に一括し、アルファベット順に表示し、その原名(漢字)を示す。なお、その際は、日本語要旨の最後の行から 1 行空けて書く。また、文字の大きさは本文と同様にする。

#### 4. 文章と文体：

①英文原稿は語学的に難点のないものであることを必要とし、著者の責任において完成原稿とすること。②数量を表す数字はアラビア数字とする。③単位は原則としてメートル法により、省略形(例えば、km や cm、 $\mu$  m など)を用いる。④数式はなるべく 2 行以上をしめないように書く。

#### 5. 引用文献：

①英文以外の語で書かれた文献を引用する場合は、その文献の末尾の語の右肩に\*などを付し、文献欄の最後に\*などの意味を説明する。例)「\*: in Japanese with English abstract」②これ以外は和文原稿に順ずる。

#### 5. 図・表・写真：

和文原稿に順ずる。

更新履歴

作成日：2013 年 11 月 10 日

更新日：2017 年 8 月 6 日